

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	アセスメントやカンファレンスの充実により、職員間で個々の排泄の情報を共有し、困難な要因を丁寧にチェックし、できないと決めつけず成功例を積み重ねていながら、トイレでの排泄や精神面の配慮へとつなげなければならない。	排泄ケアを重要視し、個々の状態に応じプランの中にも位置づけて、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行う。	身体の状態や生活リズムを考慮しながら排泄の状況を確認し、職員全体で共有する。排泄用品の検討も含め個別の排泄を支援する。	12ヶ月
2	25	一人ひとりの気持ちや思いに関心を示し、職員間で本人の視点に添った情報交換がなされ、暮らし方の希望や意向の把握に努めねばならない。	アセスメントを充実させ、その方の生活に対する思いや意向の把握につながるよう職員全体で取り組む。	センター方式を参考にした様式を取り入れながらアセスメントを充実させるとともに、個別の記録の内容にも日々の様子や心情の変化を記載し、職員間で共有しながら取り組んでいく。	12ヶ月
3	37	訓練時にも地域の参加・協力を得ながら、協力体制作りに向けた具体的な取り組みをして行かなければならない。	災害時に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員全体で身に着けるとともに、災害に対応できる地域との協力体制を構築する。	避難経路・場所を確保し、職員全員で誘導方法を熟知しておく。定期的に避難訓練を実施し、地域にも実際に参加していただくとともに、連絡網を活用し災害時にも対応できる協力体制を築いていく。	12ヶ月
4	8	職員が学ぶ機会を確保し、学習を通して権利擁護に関する制度の理解を深めていかなければならない。	権利擁護に関する制度について、職員全体で学ぶ機会を確保して理解を深め、周囲にも発信できるように努める。	職員全体で定期的に施設内研修の場で制度について学習し、レポートの提出などにより理解を深めていき、必要時には活用できるようにしておく。パンフレットやポスターなどを用い、利用者・家族・地域に発信できるようにしていく。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。